

平成 29 年 12 月 14 日

## 九州県知事会の皆様へ

拝啓 初冬の候、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

私は、福岡市の久保田史郎(産婦人科開業医 本年7月閉院 72才)と申します。産科開業医として日本の将来を危惧している者です。僭越ながら日本の少子化対策・発達障害/児童虐待の増加・母乳育児推進運動について産科医の立場から私見を述べさせていただきます。

国は少子化対策に育児支援・待機児童解消・教育の無償化の支援を唱えていますが、少子化の改善にどれだけの効果があるのか心配です。そう考える理由は少子化対策に於いて最も重要な妊婦支援(図46)が欠如しているからです。仮に、人口が増え出したとしても発達障害(図21)・児童虐待(図27)・医療/社会福祉費は人口の増加に比例して確実に増えます。何故ならば、出生直後の新生児管理の基本である体温と栄養に関するお産の設計図(産科学教科書)が根底から間違っているからです。日本で発達障害が増える理由は、母乳が滲む程度しか出ない生後3日間、糖水・人工ミルクを全く飲ませない完全母乳で哺育された赤ちゃんが世界で一番の飢餓状態(低栄養+脱水)に陥っているからです(図32)。この事を産婦人科医・助産師は誰も気がついていません。教科書の間違ひとは、日本産婦人科医会が完全母乳(母乳分泌不足)による出生直後からの著しい体重減少を飢餓ではなく“生理的体重減少”と定義していることです(図31)。赤ちゃんを出生直後に低体温症や飢餓に陥らせる医療行為(カンガルーケア+完全母乳)はまさに児童虐待そのものです。とくに日本母乳の会が認定する『赤ちゃんに優しい病院』で生まれる赤ちゃんのほとんどは寒さと飢えという虐待(ネグレクト)に遭っているのです。母乳が出ない生後3日間の完全母乳哺育と寒い分娩室でのカンガルーケア(早期母子接触)を即刻 中止しなければ日本で生まれる6人に1人の高インスリン血症(図22)の赤ちゃんは出生直後に低血糖症(図23)に陥り、脳に永久的な障害(発達障害)を引き起こします(図21・図44)。

私は 1983 年の開業当初から、発達障害の原因と予防法についての臨床研究を行ってきました。発達障害の予防に関する周産期側からの研究は世界でも例がありません。長年の研究で解明できたことは、発達障害は遺伝やワクチンなどではなく、早期新生児の低栄養(低血糖症・重症黄疸・脱水)が原因と確信したことです(図44)。厚労省や医学会などが推進する母乳育児運動が日本の赤ちゃんを低血糖症・重症黄疸・脱水に陥らせています(図23・図45)。この事は平成 27 年 3 月 12 日に自由民主党本部(障害児者調査会:衛藤 晟一会長)において、発達障害の原因と予防策について講演させていただきましたが、2年以上経っても何ら改善されません。発達障害の危険因子とされる新生児の低血糖症・重症黄疸・高 Na 血症性脱水は母乳が満足に出ない生後数日間の飢餓が原因です。幸いにも、それらの疾病はお産に予防医学を取り入れた久保田式新生児管理(保温+超早期混合栄養法)でほぼ完全に防ぐ事が可能です(図26・図43)。出生直後の低体温症(図1)を防ぐための体温管理(図2:下

段)と母乳の出が悪い生後数日間の栄養不足を人工ミルクで補足する事によって出生直後からの体重減少は著しく改善(図 32・図 33・図 34)され、発達障害の危険因子である低血糖症・重症黄疸・脱水を防ぎ(第9章参照)、ひいては医療費/社会福祉費などの抑制効果は数兆円規模(図42)と予測します。

お産に予防医学を導入し病気を防ぎ無駄な医療費を削減することによって、少子化対策としての妊婦支援・育児支援・教育無償化などに予算を充当することが出来ます。小池都知事が災害時用に「液体ミルク」の準備を進められている様に、出産直後の母乳が出ていない時期(とくに、生後3日間)には人工ミルクを積極的に飲ませ赤ちゃんを飢餓から守るのが新生児管理の基本です。生後数日間の飢餓を防ぐために人工ミルクを飲ませるだけで発達障害は激減すると確信しています。当院は開業当初(1983年)から閉院する2017年7月まで34年間 約15000人の赤ちゃんに対して、久保田式新生児管理法(図26)を行ってきました。当院で生まれた赤ちゃんに発達障害児が極めて少ないとの情報が市関係者や福岡市立こども病院の小児科医からありました。情報公開が可能になれば発達障害の原因説明・予防策はもっとお産の現場で普及します。発達障害は遺伝病ではない事を知った妊婦さんは安心して自信をもって妊娠・出産に臨める様になります。個人情報保護法の厚い壁が医学の進歩を妨げ、発達障害児を増やしているのが現状です。

私は本年7月に医療法人 久保田産婦人科麻酔科医院を閉院しましたが、この度、『妊婦と赤ちゃんに学んだ冷え性と熱中症の科学』の本を東京図書出版から11月7日に上梓しました。日本のお産の常識(自然主義)がいかに非科学的か、科学(予防医学)の知識が届かないところで医療事故(発達障害児・医療的ケア児・脳性麻痺)が増えているのです。この事実を周産期医療の関係者だけでなく、むしろ他科の医師・保健所・政治家・報道などに是非とも知って頂きたく、産科開業医の生の声(書籍)をお届けする次第です。日本に『赤ちゃんに優しい病院』の認定制度がある限り発達障害は増え続けます。この本は、当院で出生した約15000人の赤ちゃんからの皆様へのメッセージです。日本の明るい未来のために役に立てて頂ければ幸いです。

敬具

久保田史郎

(前)久保田産婦人科麻酔科医院(院長)

日本産科婦人科学会専門医、麻酔科標榜医

携帯:090-1178-7024 [Kubotahp@gmail.com](mailto:Kubotahp@gmail.com)